

平成 20 年度事業計画書

、平成 20 年度の主な事業

1、 助成事業 23,000 千円

(ア)助成募集・採択要件

本年度は助成予算として 23,000 千円を計上いたします。採択要件は例年と同じとし、1 件あたり最大 1,500 千円にて公募します。

(イ)地域・対象国分布の維持

平成 19 年度の事業対象国は、11 ヶ国でした。引続き特定の地域や国に偏ることなく、広く助成対象案件を募集・採択できるようつとめます。

(ウ)助成対象プロジェクトの発掘・検討・選考

種々のチャンネルを活用し、多種多様なプロジェクトに係わる助成申請受付をめざします。

申請団体に対し、適宜面談やヒアリングを実施して申請プロジェクトの正確な把握につとめます。

2、 国際教育活動支援事業 3,000 千円

(ア)支援を必要としている地域・階層の子ども達の教育環境を改善するためのチャンネルを増やすべく、平成 19 年度に引続き在日大使館アタッシェと当財団の協働のもとに「国際教育支援活動」事業に取り組みます。

(イ)本予算 3,000 千円に未執行残高が生じる場合、そのまま上記 1、助成事業予算 23,000 千円に上乘せすることし、合計 26,000 千円を広義の途上国教育支援予算にいたします。

3、 財団活動の PR および賛助会員募集

(ア)財団活動の PR および新規募集の強化

『祈りの石』に関連する行事に関わって PR に努め、助成実績の掲示・会員募集冊子の配布や説明等を通じて賛助会員獲得に努めます。また当財団事業の積極的 PR および賛助会員募集の手段として、毎年多数の参加者が見込める『杜のフェスティバル 2008』（広島県廿日市市にて 9 月の週末に開催。推定入場者数は 2 日間合計で約 3 万人）を後援いたします。当日は特設テントに当財団助成事業関連のパネルを掲げ、来場者に対して財団事業の PR を実施するのに加えて、賛助会員募集の場内放送を頻繁に流しますので、後援費用として 3,000 千円を負担いたします。

(イ)既会員更新の促進

3月末決算確定後にディスクロージャー(事業報告・決算報告書等)、助成事業や実績を記載するニュースレターを作成して、賛助会員あてに郵送します。自ら拠出した賛助会費が、途上国の子ども達の教育設備や環境を改善するために有効に使われていることを認識していただき、賛助会員メンバーシップの更新率を高めます。

4、 公益法人改革への対応

平成18年6月に公布された公益法人制度改革関連三法(新制度)が、平成20年12月1日に施行され、移行期間・5年の間に新制度への対応が必要となります。当財団は『公益財団法人』への移行をめざして着実に準備を進めてまいります。

以 上